

## 会員卓話

職業分類委員会 上松 治義

平成13年5月8日(火)

### 【ウィルス性肝炎について】

肝炎を引き起こすウィルスにはA型、B型、C型、D型、E型、G型の6種類が見つかっています。

我が国ではA型、B型、C型の肝炎が多くみられます。A型肝炎：糞便、食物、水、食器などを介して経口感染し、感染後2～6週間で発症する。一過性で慢性化するこたはない。B型肝炎：血液を介して感染する。感染後6週間～6ヶ月後に発症して回復する人（B型急性肝炎）現れないまま回復する人（不顕性感染）、キャリア（発症しない持続感染者）、B型慢性肝炎など、人により、様々な経過をたどる事がある。C型肝炎：血液を介して感染する。キャリアになることが多く、慢性肝炎になり易い。慢性肝炎から肝硬変や肝臓に移行することがあるので、注意を要する。早期診断、治療が有効とされる。

我が国ではC型が多く、キャリア（無症候性感染者）100万人、慢性肝炎患者150万人と推定されています。B型は感染防止対策により、持続感染者はかなり減少しています。B、C型肝炎は、過去に輸血を受けた人（現在は安全）、家族や血縁者に肝臓病の人がいる人、薬物の回しうち、刺青、ピアス、針刺し事故の経験のある人、肝機能検査で異常があった人に多くみられます。

ウィルス性肝炎の予防法として、A型肝炎：免疫グロブリンで予防できます。最近ワクチンも開発されました。調理、食事、排便時の手洗いなど清潔に気をつけます。

B型肝炎：免疫グロブリンやワクチンで予防できます。妊婦がキャリアの場合、出産時の感染防止が行なわれています。日常的な衛生に気をつけて、血液による感染を予防します。

C型肝炎：現在免疫グロブリンやワクチンがありません。日常的な衛生に気をつけて血液による感染に注意をします。特にC型肝炎は自覚症状がなく、検査をしなければ解らない人が多く、感染者の約8割が慢性化し、慢性肝炎から、肝硬変、肝臓に移行することもあり、長期の経過観察が必要です。肝機能に異常があったら画像検査（エコー、CT検査、血液検査）などの精密検査を是非受けて下さい。

（参考資料）

岐阜県医師会：ウィルス肝炎Q&A